

編集後記

1998年7月6日、香港の新しい国際空港チェクラプコク空港が開港した。これまでのカイトック空港に比べると敷地面積は約4倍、年末に2本目の滑走路が完成すると年間の旅客対応能力は3500万人、貨物処理能力も300万トンとなり、世界でも有数の巨大空港となる。香港返還一周年の時期とも重なり、空港の引越しの様子は、終日地元のテレビで放映されていた。

ただし、新空港発着貨物の8割を取り扱う HACTL ターミナル社のコンピュータシステムの故障から、開港当初から大混乱に陥っている。本来は、旅客と同時に、8月中旬頃立ち上げ予定の貨物ターミナルであり、コンピュータシステムの準備不足、また作業員の不慣れなどが重なり、回復が遅れているという。

6月30日に一步早くオープンしたクアラルンプール国際空港は、空港までの交通機関や宿泊施設などインフラ整備はまだこれからという状態である。2001年開港予定の仁川国際空港、2003年にオープンが予定されている第2バンコク国際空港については、経済危機で計画の見直しが必至である。

とはいえ、アジアの経済混乱は、いずれは回復の方向に向かうであろう。その時、これらの巨大空港はどのような活況を呈しているのだろうか。翻って、成田空港は2本目の滑走路をもっているのだろうか。

(1998年7月、古井)